

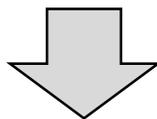
今後のエンクロスについて

エンクロスの管理運営等に見直し（案）に対する修正内容

見直し方針（1）

基本的には、現在の機能を維持しつつ、民間事業者スペースを増やす形で（見直し内容②参照）指定管理者を募集する。募集の際に、市に納付する民間事業（飲食店設置等）エリアの施設使用料の額についても、応募者に提案してもらう。

修正後

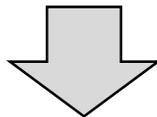


- 1) 基本的には、現在の機能を維持・継続します。
- 2) 現在の民間事業者スペースは増やさず現行どおりとします。それにより、工事費はかからず、国から受けた補助金の返還も生じません。
- 3) 現在の民間事業者スペースの中で、地元事業者が製造した弁当等を指定管理者に販売してもらいます。
- 4) 指定管理者を募集する際に、市に納付する民間事業者エリアの施設使用料の額について、市財産条例に規定する単価以上の額を応募事業者に提案してもらいます。

見直し方針（2）

エンクロス施設内に食事を調理・提供する機能も設置する。

修正後



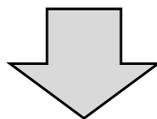
改修工事を行ってエンクロス施設内に食事を調理・提供する機能を新たに設置することはせず、地元事業者が製造した弁当等を指定管理者に販売してもらうことにします。

それにより工事費もかからず、国への補助金返還も生じません。

見直し方針（3）

公共交通結節点としての役割を果たすべく、キッズスペースの機能を引き続き維持する中で、キッズスペース内にバス待合スペースを確保します。

修正後

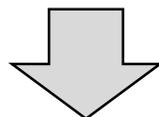


- 1) 当面、改修工事を行わない中で、キッズスペース内で、バスを待つことができるように工夫を行います。
- 2) 具体的には、バスを待つ方のためのイスを増やすとともに、「デジタル式のバス到着案内」を設置するなどして、バスを待つ方が安心して快適に待てるよう待合環境の向上を図ります。
- 3) その上で、後日、利用者の方々のご意見をお聞きし、必要があれば、別途レイアウト（案）を作成し、パブリックコメントを行い、市民の皆様のご意見を再度お聞きした上で、改修するかどうか検討することとします。
- 4) 上記1) 及び2) の対応により工事費はかからず、国への補助金返還も生じません

見直し方針（４）

施設の管理運営のための指定管理料の予定額を見直したうえで、指定管理者の募集を行う。（67, 533, 074円）

修正後



- 1) 市民活動サポート業務は行わず活動の受付と活動場所の貸出を行うことにしていましたが、施設内でのイベント開催に対する一定のサポートを行うためのマンパワーを確保することとし予定額を79, 130, 962円としたうえで、指定管理者の募集を行います。
- 2) 1)とは別に、今後市内の市民活動サポートを強化するために、市として新たに公募等により市民活動サポートのための人材を確保し、市民活動のサポートを行っていきます。
- 3) また、業務仕様書上のイベント回数を月2回と増やします。
（実際の回数は、指定管理者の判断による。）
- 4) 指定管理料を減額した分を活用して、今後更に空き店舗対策や中心市街地活性化を強力に推進していきます。

エンクロス自体の賑わいについて

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
来館者数(※)	1,283,337人	1,136,417人	699,530人	936,094人
【市民活動】開催件数	536件	641件	401件	550件
【市民活動】登録件数	127件	70件	36件	54件
【市民活動】参加者数	6,499人	5,731人	2,597人	5,375人
【自主企画事業】開催件数	258件	280件	198件	273件
【自主企画事業】参加者数	7,679人	6,576人	3,313人	6,930人

(※) 来館者数は、館内の出入口付近に設置した防犯カメラによる人数カウントシステムにより自動的に通過者数を記録し、この通過者数にカメラの捕捉率（職員がカウントした人数に対して人感カウンターがカウントした人数の捕捉率80%）や一人の来館者が30分間に何カ所の出入口を通過するかを調査した結果などによる補正率（一人当たりの平均通過回数1.22回）を乗じて得た数を、来館者数と試算していますが、例えば、30分間で一人が何回カメラに写るかという、その30分間で捉えることが妥当か、あるいはJRを利用される方で、乗車する時に7割が利用し、降車した時は3割が利用するという試算が妥当なのか、あるいはバスの乗降者数をどう捉えるかなどの点については、**更に精度を上げて考える必要があります。**

これまでの中心市街地の取り組みの検証

駅まちエリア（幸町・栄町・山下町）における効果検証

通行量（自転車・歩行者）年度別推移（平日）

（単位：人）

場所 \ 年度	H26	H27	H28	H29	H30	R01	R02	R03
延岡駅西口			1,118	787	1,241	1,359	1,374	1,381
駅まちエリア	2,749	3,275	2,916	2,049	2,386	2,650	3,281	3,305
①ココレッタ前	696	907	554	212	708	873	907	917
③まちなかキッズホーム前	487	688	529	444	451	522	575	549
④今山鳥居前	1,566	1,680	1,833	1,393	1,227	1,255	1,799	1,839
通行量合計	2,749	3,275	4,034	2,836	3,627	4,009	4,655	4,686

駅まちエリアの通行量を見ると、インクロス開業後の平成30年10月の今山鳥居前平日通行量については、1,227人と、平成29年10月の同時点では通行量が1,393人であったことに比べ減少している状況です。

これまでの中心市街地の取り組みの検証

駅まちエリア（幸町・栄町・山下町）における効果検証

駅まちエリアの空き店舗率の推移

(単位：%)

	H27	H28	H29	H30	R01	R02	R03
駅まちエリア	29.1	26.1	27.1	26.9	17.5	18.9	17.7
商店街全体	22.5	24.8	22.2	23.4	18.9	20.5	19.6

※駅まちエリア（山下新天街、幸町、サンロード栄町）

駅まちエリア新規出店状況

(単位：件)

	H27	H28	H29	H30	R01	R02	R03	合計
新規出店数	2	5	4	7	10	6	10	44
(内飲食店)	1	2		2	3	1	3	12
(内市支援数)		1			1	1	1	4

【まとめ】

エンクロスの整備や空き店舗対策、短期大学・IT企業・社団法人誘致などを実施してきたことで、駅まちエリアの通行量は増加傾向にあり、空き店舗の解消も図られてきていますが、まだまだ駅まちエリアの賑わいが感じられないのも事実であり、また祇園町、中央通り等の現状を考えると、今後更に中心市街地活性化に取り組む必要があります。

また、取り組むにあたっては、財源確保の観点も重要であることから、今後は、これまでのエンクロスの機能を維持しつつ、指定管理料を減額した分を活用して、**より強力に中心市街地活性化の取り組みを行い賑わい再生を図ることとします。**

今後の中心市街地の取り組み方針

エンクロスは、現指定管理者の運営により、一定の賑わい創出がある

駅まちエリア全体への波及、更に中心市街地全体の再生を強力に

一方で、延岡城・内藤記念博物館・野口遵記念館・城山北駐車場付近にPark-PFI方式による古民家風カフェ等の整備・（仮称）新宮崎県体育館・野球場及び多目的屋内施設の整備など、新たな人の流れを呼び込む施設整備が着々と進んでおり、千載一遇のチャンス

「駅から中心市街地全体へ」という人の流れ

「西側（延岡城・内藤記念博物館など着々と整備が進む施設）」から「東（中心市街地・駅まちエリア）へ」という人の流れ

両方の流れをしっかりとつくる中で、エンクロスの指定管理料を削減した分を活用して、これまで以上に中心市街地活性化を強力に推進

今後の中心市街地の取り組み方針

【重点的に取り組む内容】

- ① 空き店舗を活用した、創業者や事業拡大事業者に対する支援
- ② 空き店舗を活用した、コミュニティ活動等による賑わい創出
- ③ 誘致した短期大学や一般社団法人延岡こども未来創造機構と連携した、まちなかの賑わい創出
- ④ 本年3月にオープンした延岡駅西口街区ビル入居企業等との連携によるまちなか賑わいの創出
- ⑤ 今年中に完成する延岡城・内藤記念博物館や野口遵記念館、更に令和5年度中に完成する(仮称)新宮崎県体育館や西階地区の野球場・多目的屋内施設などの施設整備完成を活かした、まちなか回遊創出に向けた取り組み

(6月補正に調査分析の予算計上)